

地域福祉プラットフォーム型

システムの構築について



問

第5期幕別町総合計画第3章「笑顔

ゆきかう健康とやすらぎのあるまちづくり」の中、第4節「心かよいあう地域福祉の推進」について、その現状と課題として「住民間のつながりが気薄化するなど相互扶助機能が低下している中、地域で暮らす高齢者、障がい者の中には、さまざまな問題に直面しながらその対応に不安を抱えている方が少なくありません。家庭、コミュニティ、事業者、行政などがそれぞれの役割を分担し、また、町民一人ひとりが福祉に積極的にかかわり、相互に助け合う地域福祉活動を推進しながら、自立に向けて援助を必要とする人々の生活を地域社会で支えていくことが求められている」としている。

その具体的な施策のひとつとして、「地域福祉プラットフォーム型システム」

の構築を目指す。行政のサービスの届かない福祉サービスを、町民に提供するのための最適な施策である。福祉バスや給食サービスを受けられない高齢者や、雪かき、剪定、家事支援、通院介護や院内介護、買い物支援、外出支援等を求める高齢者や障がい者が多く、今後ますます高齢化が進む中、少しの支援で自立してゆけるシステム作りが急務である。

の傾向が見受けられることは、非常に残念なことだと思っている。取り組み状況としては、本年度に町が策定を予定している「地域福祉計画」や社会福祉協議会が策定を予定している「地域福祉実践計画」中で、検討をしている。今後、町が策定する「地域福祉計画」は、地域での助け合いやボランティア活動の推進と、福祉に関する相談や福祉サービスが身近な地域で利用でき、だれもが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送るための仕組みを、地域社会の力を活用しながら作りあげて行く計画である。

町長 質問の要旨にあるように、現状、本町においても核家族化の進行や地域における高齢化の進展などにより、住民間のつながりが希薄化し、昔ながらの相互扶助という機能に低下

また、社会福祉協議会で策定する「地域福祉実践計画」は、自分たちの町の地域福祉をどのように進め、かを社協や関係団体が協議して、民間の立場から策定する計画である。住民ニーズに立ち、様々

な関係機関と連携し地域福祉を推進するため、地域住民、在宅福祉サービス、ボランティア、地域福祉団体等に参画していただき策定が予定されている。

相談に訪れた方の身体状況やライフスタイルに応じ、公的制度によるサービスや小地域ネットワーク活動、無償ボランティア活動、住民参加型在宅福祉サービスなど、多様なスタイルのサービスから、最もその人にふさわしいサービスを提案し、単独ではカバーでき

ない領域もカバーできる様な仕組みが求められているものと思っている。

このシステムの構築に向けては、個人や地域、関係団体、企業など多くの方の協力や参画が不可欠であり、住民一人ひとりが地域福祉の担い手であるという意識を持っていただくことが重要であると考えている。

今後も、社会福祉協議会と連携を図り、地域福祉プラットフォーム型システムの構築に向け、検討を進めたいと考えている。



独居老人宅除雪作業（江陵高校生ボランティア活動）